

2020年度 年主題「こころが満たされる」

1・2歳児 5月主題 「見つける」

月のねがい

- ◎さんびかに親しみ、心地よさを感じる
- ◎自分の思いを表す
- ◎屋外の光りや風の中、春の花や虫などを見つける
- ◎気持ちを受け入れられ安心感を覚える



3・4・5歳児 5月主題 「気づく」

月のねがい

- ◎神さまが創られた世界に目をとめる
- ◎戸外での遊びが増え、草花や虫に触れながら、命について考える
- ◎困ったことや失敗があっても、保育者の見守りの中で自分で気づいたり、考えたり、やり直したりする



今月の聖句「平安あれ。遠くのものにも近くのものにも平安あれ」

イザヤ57:19

新型コロナの影響が世界中を覆っています。健康面においても、経済的な面においても、先行きの見えない戦いが続いています。身体のケアも必要ですが、同時に心のケアが必要とされています。この事態を受けて、読み直されている本があります。カミュの書いた小説「ペスト」です。人類史上初めて最大のパンデミックを起したと言われるペスト(別名「黒死病」)は、ヨーロッパを中心に14世紀から15世紀にかけて断続的に発生しました。当時の世界人口の22%にあたる一億人以上のいのちが犠牲になりました。不条理とも言える事態に、人はどのように向き合えばいいのか、それがこの小説の大きなテーマです。その中に印象深いフレーズが出てきます。「人が常に欲し、そして時々手に入れることができるものがあるとすれば、それはすなわち人間の愛情である」。非常事態や不条理な中でこそ、人のやさやかな思いやりや愛情が必要だと訴えるのです。そして、そのような思いやりや愛情がある中で、人は心に安らぎや平安を見出すことが出来る訴えます。人の罪が犯す不条理や天災による苦しみを隠さず描く聖書は、同時にそのような人々に注がれる神の安らぎを示します。「平安あれ。遠くのものにも近くのものにも平安あれ」(イザヤ書57:19)という今月の聖書のこぼれは、神さまのそのような思いを描いているのです。

教会協力牧師 池田基宣



目の前の真実に目を向ける

新緑の木々の薫りが園庭を包み、豊かな自然の息吹を感じさせます。今が盛りりの月見草や花々が、美しい彩りを添えて微笑んでいるようです。子どもたちの泣き声や笑い声に包まれる空間は、生命の活力に満たされ愛しいもの、すべての人にとって平安が与えられますよう祈ります。

非常事態宣言の対象が全国一斉となって十七日が過ぎました。現時点では確定はしていませんが、どうも一ヶ月ほどの宣言延長が濃厚のようです。自治体の要請もあり、本園も登園自粛をお願いしておりますが、全体の約半数の子どもたちが自宅で過ごしております。お仕事によっては、就労に影響の出ているご家庭もありません。

国難とも言えるコロナウィルスの感染拡大。症状が悪化して亡くなる方は高齢者とは限らず、既に日本では四五〇人を超える方が命を落とされている状況です。その陰で、感染者の命を守るために命懸けで働いておられる医療従事者のことを思います。マスクを始め自らの感染を守る物資が不足しているようです。そのような過酷な現状に心を動かされ、日本でも有名と言われる方たち(プロスポーツ選手、アーティスト、芸能人等々)がマスクや多額の寄付をされていると聞きます。もちろん多くの匿名の方も。まことに素晴らしいことですが、被災地支援の際もそうであったように、こういう行為を行うと、決まって売名行為だという批判が起るものです。それに嫌気がさして一般の方は匿名になりがちなのかもしれません。日本の社会では、親切心を行動に起こそうとするとき、周囲の目や評価、ねたみ、批判を恐れて顔を隠してしまう風潮があるようです。愛を行動に表すことを「親切」と言いますが、なぜ「親を切る」と書くのでしょうか。切るは「親切」と物騒に思えますが、「切に思う」や「身を切る」と使われるように、強く親しみを保持し、人に尽くすことなどか。確かに愛を行動に表すことは勇気のあることです。聖書に次のような記事があります。当時不治の病であった重い皮膚病を患った人がイエスに癒しを求めに来ましたが、この病に罹ったものは、人里離れたところに隔離されなくてはなりません。彼を見た周囲の群衆はあわてて離れたが、イエスは手を伸ばし彼に触れ、その病を癒やしました。イエスは批判を恐れず、目の前で助けを必要としている一人の人に目を向けたのです。周りの人々の目ではなく、親切は自分の心にある願いや思いを満ちた行動です。決して見返りを求めるものではないことを信じ、素直にその行為に讃美を贈りたいものです。

子どもによつては、そろそろ疲れが出始める頃です。連休をご家族で楽しめながら、どうぞ十分な休養もお願ひしたいと思います。梅雨時を元気に乗り越えるためにも、毎日の変化に気づきながら楽しい園生活を支えていきたいと思っております。

学園長

5月の行事予定

7日～15日	家庭訪問(3才以上)
8日(金)	誕生会(2才以上4・5月生)
16日(土)	親子遠足・父母会総会
21日(木)	弁当日
30日(土)	誕生会(0・1才4・5月生)
21日(木)	内科検診(3～5才児)
22日(金)	内科検診(0～2才児)

6月の行事予定

2日(木)	給食試食会(4・5才児)
4日(木)	給食試食会(3才児)
10日(水)	歯科検診(全園児)弁当日
12日(金)	誕生会(2才以上6・7月生)
20日(土)	家族の日参観(3才以上)弁当日
27日(土)	子育て講演会(13時半～)

ともだちと せんせいと

～一緒に楽しいかも?!～

新しいお友だちも、涙の朝から少しずつ笑顔が見られるようになりました。自分の好きな玩具、遊具で遊んだり、好きな居場所を見つけ始めたようです。毎朝、お子さんの心に寄り添い笑顔で送り出してください感謝です。

先日のお友だちクラスのこと。朝から泣いて不安をいっぱい表現している新入児のYちゃん。給食の時間になっても食べることを拒み、「ママー」と泣いていました。そんなYちゃんに進級児のHちゃんがやってきて、まるで先生たちがするかのように「はい! あーん」と、スプーンにのせた給食を差し出したのです。するとびっくり!泣いていたYちゃんはバクツ!と食べたのです!その後、数回食べさせてあげていたものの、「〇〇、疲れたから自分で食べて!」とHちゃんは立ち去りました。すると、食べさせてもらっていたYちゃんも自分で食べ始めたのです。どうしても食べなかったら、お母さんにお電話しようと思っていた先生たちでしたが、一人のお友だちの関わりによって、ずっと心が動いた瞬間でした。



園庭にはこいのぼりが泳ぎ始めました。「こいのぼりはどうやって泳ぐの?」と不思議を発見したり、「(木の枝にひっかかって)痛いってー!」とこいのぼりの気持ちになってつぶやいてみたり(笑)。ダンゴムシ、風車など、春の虫や風を楽しみながら「見せてー」「あっ!回ったー」と、少しずつ友だち同士で楽しんでいる姿も見られます。

5月の心地良い風に吹かれながら、不思議を見つけたり、子ども世界の交わりを楽しめたらいいなと思います。"先生と一緒に楽しい""友だちと一緒に楽しい"をたくさん味わって欲しいと思います。

主幹 伊豆元奈緒子

運動神経のベースが作られる乳児期のからだ遊び

- 【ねんね・寝返りの頃】 ～うつぶせでこんにちわ～
うつぶせの練習をしながらママと目を見合わせて遊ぶと、首や背中中の筋肉がしっかりしてきます
- 【ねんね・寝返りの頃】 ～鏡でこっちだよ～
手鏡を見せながら、ゆっくり上下に動かし、追視の練習をする事で、目や脳の刺激になります
- 【ねんね・寝返りの頃】 ～体ひねり～
足をバタバタするようになったら、両足を持って右、左と優しく体をひねってみましょう。寝返りの感覚をつかみやすくなります
- 【おすわり・はいはいの頃】 ～ボールでころころ～
ボールを転がしてキャッチ! ボールを追って動き出します
- 【おすわり・はいはいの頃】 ～何でもビリビリ～
新聞紙をちぎっても、レタスやキャベツでもOK! 集中しながら指先を使う遊びは、脳へのいい刺激に
- 【おすわり・はいはいの頃】 ～はいはいでGO!～
はいはいは、腕や足の力をつけるためにも積極的に丸めた蒲団の上や、パパの膝の上をハイハイしながら

【立っち・あんよの頃】 ～グラグラバランス～
パパやママの膝の上に立たせて、手をつないだままグラグラ揺らします。慣れたら手も離してみても。バランス感覚が養えます。

【立っち・あんよの頃】 ～押せ!押せ!段ボール～
玩具などを入れて少し重くした段ボールを両手で押して遊びます。力を入れて押すことで体幹が鍛えられます。

【立っち・あんよの頃】 ～はだしで探検～
立っち・あんよができるようになったら、室内はできるだけはだしで歩かせて。はだしで歩く足裏の感覚が刺激されてしっかりと歩けるようになります。脳への刺激にもなります。

☆運動神経がいいとは・・・
まわりの子よりも「足が速い」「バランス感覚がいい」「俊敏に動ける」といったことではありません。脳が指令を出して、上手に体を使えるようになること。そしてそのベースを作られるのが乳幼児期です。脳や視覚、聴覚などの神経は10歳頃までにほぼ完成します。そのため乳幼児期は特に五感を使って遊んだり、運動したりすることを心がけて下さい。

横浜市東部病院小児肝臓消化器科 十河 剛 医師